



日光川水閘門を視察する党愛知県議団(右から6人)

# 水害から住民を守れ

## 老朽化進む水閘門など視察

知 愛 党  
議 県 議 団

津波・高潮対策の現状と課題を探るため、公明党愛知県議団(木藤俊郎団長)はこのほど、船舶が通行できる水門「日光川水閘門(同県飛島村)」などを視察し、関係者と意見交換を行った。

9市2町1村からなる2級河川・日光川(長さ約41キロ)流域は、中・下流部が海拔ゼロメートルより低い日本最大の地域で、ポンプによる雨水の排水が必要となるなど、水害の危険性が高い。同水閘門は、こうした問題を解消するため、24時間体制による監視と、水閘門を開閉することで水位を調節している。しかし、同水閘門は築約50年が経過。コンクリート部分にひび割れが発生するなどの老朽化が著しく、大規模地震

により損傷する可能性があり、日光川に新しい水閘門を建設する予定となっている。

一行は、県職員から説明を受けた後、実際に水閘門などを見て回った。また、標高の高い地点に設けられ、水害時に避難道路および緊急物資輸送路となる「防災道路」も視察した。

木藤団長は「災害時などに住民の命を守る施策として、水門の整備は喫緊の課題だ」と述べ、「県議団としても近隣の市町村と連携し、対策に取り組みたい」と語った。

が著しく、大規模地震